

# がんばってます!



**白濱 幸一さん**

JAあじきた  
(株)Sun Rise 代表  
取締役



芦北町田浦で、デコポン栽培をされている白濱幸一さん(64歳)を取材しました。白濱さんのご家族は、奥様と娘さんご夫婦、お孫さん

**西川 君代さん**

JA大浜  
女性部部长



玉名市大浜町で、トマトの栽培をされている西川君代さんを取材しました。西川さんのご家族は、旦那様と旦那様のご両親の4

人3人の7人家族です。

## ●就農について

地元の農業高校卒業後、実家の農家を継ぐため、就農されました。

現在は、白濱さんご夫婦と、娘さんご夫婦の4人(忙しい時期は、従業員を雇用)で、施設によるデコポン150<sup>ア</sup>、露地によるデコポン200<sup>ア</sup>を栽培されています。

## ●自分の農業

「自分が師事する方に弟子入りし、デコポン栽培の技術のノウハウを習得させ

ていた家族です。

## ●就農について

玉名市石貴で生まれ育った西川さんは、地元の高校卒業後、会社へ就職。2人

目のお子さんが生まれたのを機に、勤めていた会社を辞め、就農されました。子供を預けて会社で働くより、子どもの近くで、成長を見守りながら仕事ができる農業に魅力を感じ、会社を辞めることに対しては、何の迷いもなかったこと。

現在は、西川さんと旦那

ていただき、栽培を始めました。普通デコポンを栽培

するときは、苗木を業者から購入し栽培しますが、私は、苗木から育てています。業者がするような接ぎ木をすることからです。自分が育てた木の良い枝を使い、良品質の苗木を育てます。そして、古くなってきた木は、その都度新しい木へと植え替えています。」

## ●将来への思い

「甘夏みかんから始まり、温州みかん施設一部、そして、デコポンへと栽培を変

えていきました。

## ●農業をやっている良かったこと

「自分が働いた分の収入や見返りがあることです。そして、収穫の喜びが体験でき、また自分が作ったトマトを『美味しい』と言ってくれる言葉を聴けることは、大変うれしいです。会社に勤めていた頃より、喜びが多くなりました。」

えましたが、いいタイミングで変えることができたと思います。育て方の違いや、台風、大干ばつ、大雪に見舞われ苦労は絶えませんが、しかし栽培の波に乗ることができ、土地を購入し規模を拡大、法人化して、5年経ちました。来年から若い方を常時雇用する予定です。一緒に仕事をしながら自分が培ってきた農業の技術を教え、次世代の後継者たちを育てていけたらと思います。」

## ●最後に一言

「県内外、後継者不足です。指導者の方は、農業に興味がある若手を見つけ、やりがいや活力があり、意欲の湧く指導をしていただきたい。若手の目標が中途半端にならないよう、やる気を出させる研修など、指導者側も考えていきましょう。」

## ●将来への思い

「後継者がいないので、自分たちの出来る範囲で、おいしいトマトを作りたいです。また、海外からの実習生の受入れも、続けていけたらと思っています。自分が今まで積み重ねてきたものを、一つでも母国へ持ち帰ってもらい、実のあるものにしてもらいたいです。」

## ●好きな言葉

「感謝」「ありがとう」

です。誰に対しても、感謝の気持ちで接し、『ありが

とう』の言葉を忘れないようにしています。」

## ●最後に一言

「農業は、自分たちでリズムを作ると、仕事の配分がわかり、休みも作れます。大変なことは、たくさんあると思いますが、頑張ってください。」

娘さん3人を嫁がせ、長男は北九州へ就職されています。寂しさを感じる暇がないほど、仕事や、海外からの実習生のお世話に奮闘している西川さんでした。